

復活節第1主日・復活日・イースター(白)

イースター礼拝

2025年4月20日 10時20分～

司式:

奏楽:

■■■ 調布教会は2026年度に創立80周年を迎えます! ■■■

最初のイースター

『創世記』の1章では、天地創造の出来事について書かれています。一日ごとに「夕べがあり、朝があった」と記され、神の御業によって、世界は闇から光へ向かう流れにあることが告げられます。1章は「祭司資料」と呼ばれる資料によるものであり、非常に古くからの資料がバビロン捕囚時に編集され、成立したのだと考えられています。バビロニアの攻撃によって、エルサレムは廃墟となり、イスラエルの民の心は絶望的な暗闇の中にありました。しかし天地創造の神を信じるなら、廃墟からでも復興させてくださるという希望の光を射し込むようなメッセージが語られているのです。天地創造の御業の中で人間も創造されました。「神のかたち」に創造されたということは、神と共に生きる者とされたということです。バビロン捕囚はイスラエルが神に背いたことによって招いた試練でした。それなら神に従うことこそ、復興のための希望の光なのです。

『マタイによる福音書』では、安息日が終わり、「明け方」となります。暗闇の世界に光が射し込むのです。マグダラのマリアと、もう一人のマリアは、主イエスを失った悲しみの中で、絶望的な暗い心で墓にやって来ます。ところが墓にあるはずのご遺体はなく、墓は空っぽになっていました。そのとき、稲妻のように輝く天使が彼女らに言います。「あの方は、ここにはおられない。かねて言われていたとおり、復活なさったのだ」と。「女たちは、恐れながらも大喜びで、急いで墓を立ち去り、弟子たちに知らせるために走って行った」とのこと。新しい神の御業! 復活によって、彼女たちの暗い心も明るく照らされたのです。

《神の招き》

前奏 『聖なるキリストはよみがえりぬ』 J.G ヴァルター
入堂行進 (イースターエッグ奉獻) : 教会学校
招詞 詩編118編15節
賛美歌 21-325

《神の言葉》

祈禱 聖霊の照らしを求める祈り
聖書 創世記1章26～31節 (旧約 2頁)
マタイによる福音書28章1～10節 (新約58頁)

こども祝福式、奉唱(教会学校)

交読詩編 詩編66編5～9節 (74頁)

賛美歌 21-328

説教 「最初のイースター」 八木浩史牧師

祈禱

賛美歌 21-326

《感謝の応答》

信仰告白 使徒信条

転会式 21-543

献金

祈禱 献金当番

主の祈り (週報表紙、ホームページ掲載)

聖餐 21-81

《派遣》

頌栄 543

祝福

報告

後奏 『ハレルヤ、ハレルヤ (讃美歌21-328、高浪晋一)』